

右書付、寅二月晦日御呼出御吟味相成、三月朔日右之通書付上ル、

〔奇異雜談一〕江州枝村にて客僧にはかに女に成し事、井智藏坊の事

それがし村某○中若年のとき、江州島郷に數日逗留する事あり、諸人玄ゆるぐざうだんの中に、一人

の老者かたりていはく、當國枝村といふ宿に、むかしふしぎの事あり、たとへば年廿ばかりなる客僧一人きたりて一宿す、そのかたち美容にして、比丘尼に似たり、言聲形儀は僧なり、其夜大雨ふりて、翌日ははれず、かるがゆへに日とまりす、此人夜あけてより、そのすがた軟弱にして、ぎやうぎ音聲へんじて女と見えたり、亭主あやしく思ひて、いづかたより御とほり候ぞといへば、我はゑちごの者なるが、丹波の大野原の會下に、二三年ありて、いまゑちごへくだり候といへば、亭主、丹波の事ぶあんないなり、ゆへにくはしくはとはす、そのすがたあやしきゆへに、僧にて御入候か、比丘尼かたとへば、うちわらひて、比丘尼にて候とこたふ、亭主おもしろくおもひて、その夜ふし所に行てとりか、れば、ぞたいすれどもつゝゐに、えたがふて嫁宿す、常のごとし、亭主先婦をうしなひて、やまめなるゆへ、さいはひの事なり、夫婦となり、これにとめ申べきといへば、比丘尼やうじやうす、すなはちつゝ、みて髪をながくす、ほどなくはいにんして、男子を生ず、やしなひて好子をえたり、略○下

〔窓の須佐美追加〕上備中國にて、農家の女、嫁して程なく出されければ、外へ嫁しけるが、又出される程に、父の家に居けり、此女十六七歳なりけるが、生つきすくやかにて男めきたり、心も剛にして、父が村里の夜使などにあたりぬれば、代りゆきて、夜半といへど畏れざけり、其隣に同じころなる女有しが、いつとなく懷妊しければ、父その夫をさまぐとひけるに、初の程はかくせしが、後にはかの女と通じてかくの如くといひけるに、父怒驚き、此事を告てとふに、此女初は女なりしが、いつとなく男になりけるとぞ、さて互に争ひて、訟出ければ、奉行所にて子細を尋問れ